

須坂市小中学校の適正規模等を考えるシンポジウムを開催しました



問合せ 学校教育課 (☎ 026-248-9010)

須坂市では、近年の少子化の影響から児童生徒数が年々減少し、学校の小規模化が進んでいます。こうした状況がこのまま進むと、子どもたちの学びの環境に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

そこで、2022年度に須坂市小中学校適正規模等審議会(以下、審議会)を設置し、小中学校の適正な規模および適正な配置の在り方を諮問しました。今後も議論を深め、2023年度中に答申をまとめます。

審議会では、2022年11月27日にシンポジウムを開催し、これまでの審議会での議論を振り返り、市民アンケートの結果など、参加された市民と共有しながら、「次代を担う子どもたちにふさわしい学びの環境はどうしたらよいか」を議論しました。

市民アンケートの概要



市民アンケートは、無作為に抽出した市内在住の18歳以上800人を対象に、9月1

日(30日まで実施(回答率42%)し、小中学校における学級数や児童生徒数、学校数(配置)などを尋ねました。

市民アンケートの結果

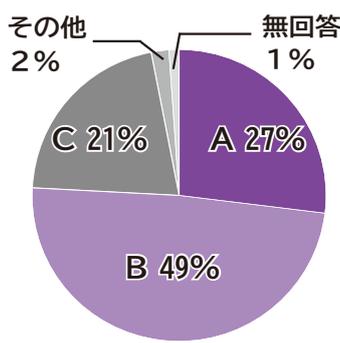
「適正な1学年当たりの学級数」の質問では、小学校は「2〜3学級」、中学校は「4〜6学級」とする回答が最も多くなりました。

質問① 少子化の中で学級数(配置)に関して、どのようにお考えですか。

A 須坂市全体の学校を対象として計画的に学校再編を進めるべき

B 今の学校数が望ましいが学校再編を進めるのはやむを得ない

C 今後、さらに児童生徒数が減少しても、現在の学級数が望ましい



理由として「さまざまな個性の友だちと触れ合える」や「クラス替えが可能で、人間関係が広がる」という回答が多くありました。

「1学級当たりの児童生徒数」の質問では、小中学校ともに「30人以下が適当」との回答が最も多くなりました。

理由として「一人ひとりの児童生徒に応じた丁寧な指導を受けられる」「集団内においてさまざまな役割分担を経験できる」という回答が多くありました。

質問②では、AとBの合計は76%で、学校再編に肯定的な意見が7割を超えました。
※アンケート結果の詳細は、市ホームページからご覧いただけます。



アンケート結果

審議会委員の意見

▼「子どもたちに育みたい能力」を尋ねた質問で、「他者を思いやることができる心」「物事の善悪を判断できる力」が上位を占めたが、これらの能力は幼児期の遊びの中で育つ非認知能力で、幼稚園や保育園などの集団生活の中

でこそ育つ。

▼人間には成長に応じた集団の大きさが必要で、段階的に大きな集団に触れていく教育の環境づくりが大切。

▼学校は社会に出る前に人間関係や生き方を学ぶための鍛錬の場で、多様性に満ちていないといけない。

また「児童生徒数が少ない学校では、一人ひとりに丁寧な指導ができると思われがちだが、教員数も少ないため教員1人が受け持つ時間数や校務分掌が増える」との課題も指摘されました。

第2回シンポジウムを開催します

保護者や教職員、児童生徒アンケートの結果を参加者と共有し、議論を深めます。
とき 2月19日(日)午後2時〜3時30分

ところ 旧上高井郡役所2階
定員 40人(申込順)

※オンライン参加は100人
申込方法 電子申請または電話でお申し込みください。
申込期限 2月15日(水)



電子申請